

## 令和元年度 学力向上プラン

学校名 中央区立日本橋小学校

## 学校の教育目標

- ・礼儀正しい子（きまりを守り、礼儀正しく思いやりのある子ども）
- ・よく考える子（創意工夫をこらし、主体的に学び続ける子ども）
- ・やりぬく子（勤労と責任を重んじ、何事にもねばり強く努力する子ども）
- ・健康な子（明るく、心身ともに健康な子ども）

## 学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- 目標「自分の考えをもち、主体的に学び続ける子どもを育てる」
- ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得 ・問題解決的な学習や体験的学習を通じた思考力・判断力・表現力の育成
  - ・話し合い活動を通し自分の考えを深めたり、広げたりさせる ・習熟の程度に合わせた指導や少人数指導の充実

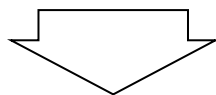
平成30年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「感想文」や「意見文」などの文章を書く際に、文章構成や語彙などを意識しないで書いている。</li> <li>・上記調査項目の結果から「言語」についての知識・理解が低い児童がいる。</li> <li>・漢字学習の習得状況や文を書く力にやや課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要感をもって文章を書く経験が少ない。</li> <li>・新出漢字の習得や辞書を使っての意味調べなどの学習が一人一人に定着していない。漢字を練習し、活用する力の積み重ねが不十分である。</li> </ul>
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学年も上記調査項目で「思考・判断」については正答率が低いのが今後の課題である。日常の学習の様子でも、自分の考えを図や数直線などで立式・説明することが苦手である。</li> <li>・低学年を中心に、問題の意図を読み取り数学的に考える力が低い。(東京ベーシック・ドリルからの分析)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を論理的に考え、その考えを説明する力が十分に育っていない。</li> <li>・基礎を活用し、文章題の応用問題に答える力が育っていない。</li> <li>・式の意味を考える力や数学的に考えて立式する力に課題がある。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフや表から情報を読み取るといった「思考・判断」の力が低い。</li> <li>・4年生で学ぶ「交通事故や事件」「安全を守る活動」など、社会的事象についての理解度が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表やグラフから情報を読み取ったり、多数の情報を整理して考察したりすることに苦手意識をもっている児童が多い。</li> <li>・考察した内容を学んだ知識を生かして記述する力が弱い。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の観点に比べ、「観察・実験の技能」の定着がやや不十分である。また、実験・観察結果から、筋道を立てて論理的に考える力がまだ育っていない。</li> <li>・自然事象への関心が全体的に低い。(全国学力向上調査などからの分析)</li> <li>・実験器具の扱い方に関する知識の定着が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の経験や既習事項から予想を立てたり、結果を論理的に考えたりすることができない児童が多い。</li> <li>・自然の事象に触れる機会が少なく、関心が低い。</li> <li>・学習で多くの実験を行っているものの、最後まで説明を聞かず</li> </ul>

		に始める傾向があり、用具の使い方を習熟できていない児童が多い。
体 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の体力測定の結果から、各学年とも「持久力」と「握力」に課題がある。全体的に他の項目も低く運動技能に個人差が大きい。</li> <li>・「投力」と「持久力」の値が全体的に低い。(H30年度体力調査からの分析)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びより内遊びを好む児童が多く。運動経験の差が大きい。</li> <li>・長時間の運動を苦手とし、持久力に課題がある児童が多い。また、日常的にボールを投げる経験が浅い。</li> </ul>

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	基本的な学習規律（次の授業の準備をする、時刻を守る、姿勢を伸ばすなど）を守ることができるようにする。B時程の日を利用し、学習の定着が十分ではない3～6年生児童を放課後に集め、算数を重点として補習教室を行う。
②授業改善	授業での児童の様子や各単元のまとめや学力テストの結果をもとに授業づくりを見直し、児童の実態や理解度により適した授業へと改善を図る。各学年、各教科において都や国の学力調査において平均正答率を上回ることができるようにし、正答率を下回った問題は年度末までに繰り返し復習し完全に習得できるようにする。 国語の学習以外でも文章で表現する機会を増やし、児童が自ら意欲的に文章を書くための資質を高める。
③教員の指導力	校内研究や各学年での授業研究で、様々な経験年数の教員を混成した小グループを編成して協議するなどして指導力の向上を図る。全教員が年度末までに年間3回以上の授業公開や実技研修を行うようにする。
④家庭との連携	学校から家庭学習や自主学習の内容や方法の目安を提示する。宿題の提出率は100%を目指す。また、学校評価（保護者アンケート）の関連する質問項目で80%以上の肯定的な評価を得ることを目指す。
⑤体力向上	H30年度の体力調査の結果から、「持久力」「投力」が平均値を下回っていたので、平均値を上回るように授業改善に取り組む。また、休み時間には日常的に縄跳びを推奨し「持久力」向上を図り、スポンジ小ボールを使用しての「投力」の向上を図る。

## 【目標達成のための具体的な取組内容】



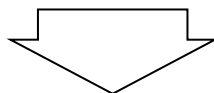
①学力基盤	
取組Ⅰ	授業後、休憩時間、休み時間に離席する前に、次の授業の準備をすることを習慣付ける。オルゴールやチャイムの合図を守って、遊びや休憩を終え、決められた時刻で授業を始められるようにすることができるようにする。
取組Ⅱ	話を聞くときは話す人の目を見て、最後まで聞くこと、話すときは相手を見て、聞き取りやすい声の大きさや速さで話をするようにする。
取組Ⅲ	持ち物には記名し、前日に持ち物の準備をして忘れ物をしないこと、学習に関係のないものは持ってこないことなど、家庭と連携し指導を行う。年度始めの保護者会でも具体的に保護者に呼びかける。
②授業改善	
取組Ⅰ	学習指導要領や教科書をもとに、本校で行われてきたこれまでの実践を生かした児童の実態に合った授業プランや指導計画を編成し、実行していくことで、児童の学習意欲や理解度を高めることができるようにする。
取組Ⅱ	授業における児童の様子や各単元のまとめや学力テストなどの結果をもとに各学年、学級の課題を分析し、重点的に指導を行ったり、改善、向上に向けて継続的な取り組みを実施したりする。課題の一つとして国語の学習以外でも文章で表現する機会を増やし、学年の発達に応じて文章で表す活動の日常化を目指す。
取組Ⅲ	「学び合い」を重視した学習活動を授業の中に取り入れ、互いの考えを深めたり広げたりする。
③教員の指導力	
取組Ⅰ	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるために、全学年で授業規律の定着を図り、児童の興味・関心を高め、学習に意欲的に参加できるように指導を行う。
取組Ⅱ	問題解決的な学習や体験的学習を工夫して、自分の考えをもって学習に取り組み、話し合い活動により自らの考えを深めたり、広げたりする学習を通して、自ら学ぶ態度を育てる。
取組Ⅲ	日常の学習状況や学力サポートテストなどの結果を基に、習熟の程度に応じた指導を充実させ、児童一人一人に確かな学力を定着できるよう図る。算数においては、東京ベーシック・ドリルの結果を分析し指導の改善を行う。

#### ④家庭との連携

取組Ⅰ	各学年、学級の実態に応じて継続的、計画的に課題を与え、家庭学習の習慣を身に付けることができるようにする。また、学習目標を共有し、家庭学習を進んで行き、提出しているか確認への協力を求める。
取組Ⅱ	連絡帳や学年便り、電話連絡を通して家庭との連絡を密にする。学校での児童の成長や課題等を伝えると同時に、家庭での様子や保護者の要望なども伝えてもらい、児童理解や指導を進めていく。
取組Ⅲ	サマースクールや B 時程の日の放課後補習授業の意図を丁寧に説明することで保護者に理解と協力を求め、夏季休業中や放課後を活用した個別指導の充実を図る。

#### ⑤体力向上

取組Ⅰ	スポーツクラブの講師から11月にコーディネーション運動を1～3年生に指導してもらい、日常的に先生方が使える指導方法を体育部から提案する。その提案を受けて、各クラスで実施する。
取組Ⅱ	「投力」向上の取り組みとして、休み時間に使えるボールとしてスポンジの小型ボールを用意し、投げる運動（キャッチボールやパス練習など）に積極的に取り組ませる。
取組Ⅲ	「持久力」向上の取り組みとして、長縄月間中は全学年八の字跳びを2分間×3回実施し、短縄月間中は、1～3年2分間、4～6年3分間持久跳びを毎回実施する。マラソンカードを生かし、長距離を走る力を積み重ね、達成感をもたせる。



## 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間を守る意識が高まり、決められた時刻で学習に取り組めるようになった。</li> <li>・ 日常から暗唱テストなどで、声出しになれば、学芸会も経て、話すことは得意な子がふえた。</li> <li>・ 朝学習、家庭学習、補習教室を通して、主に算数、国語の基礎を定着させることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞くことは非常に苦手で、すぐにしゃべってしまう児童や漢字学習や計算学習の定着が不十分な児童が各学級に数名いる。</li> <li>・ 話を良い姿勢で目を見て聞くことができない児童が何人かいるため、話を聞くことに対する指導を改めて徹底する。</li> </ul>
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラムマネジメントの考えで、単元の入替えなどをしており、関連付けて指導ができた。担任が他学級で授業をしたり、学年で合同授業をしたりするなど、授業の工夫を行った。</li> <li>・ 少人数で話し合う活動を設定したり、思考ツールやホワイトボード等を活用しての話し合いを取り入れることで、考えを広げたり深めたりさせることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの実践を参考に授業計画を立て、児童の意欲や理解度を高められるよう、努めていく。</li> <li>・ 思考ツールやホワイトボード等を活用する話し合い活動を更に多くの学年に拡げていけるよう試みていく。</li> </ul>
③教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究発表に向けて、互いの授業を見合う機会が多くあり、指導力の向上につながった。また、他学級で授業をすることで、授業展開の工夫や改善を試みることもできた。</li> <li>・ 来年度に向けて持ち物や学習用具等の決まりを全校で統一するために、生活指導部を中心に改めて検討している。学年でも持ち物等の学習環境を整えられるよう指導した。</li> <li>・ 低学年では、算数各コースで、毎時間最初に計算の時間を取り入れることで、計算力が伸びた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援を要する児童に対しての指導の工夫が十分にできないときがあった。OJT 研修を通じてベテラン教員から若手教員へ授業実践例や指導法を共有できる場面を増やし、指導力の向上を図る。</li> </ul>

<p>④家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシックドリルの個票を毎学期保護者に渡し、連携を図ることができた。</li> <li>学年によっては、学年便りを週1回出して、保護者に学年の様子、実態を伝えることができた。</li> <li>放課後補習教室や担当者の数を増やしたことで効果的な指導を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習で算数を中心に東京ベーシックドリルを定期的に活用し、学習内容の習得が不十分な児童への支援を充実させるとともに、基礎的な学力の全体的な底上げを図る。</li> </ul>
<p>⑤体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>20分休みには必ず外に出るように促し、担任も児童の様子を観察するようにして、実態に応じた運動に関する指導を行った。          コオディネーショントレーニングが効果的で、児童も興味をもって取り組んでいた。</li> <li>スポンジボールは女子が使って遊ぶようになり、効果的であった</li> <li>大縄（2度の集会活動に向けて各学級での取組）、持久走（持久走カードを活用しての体育の時間や休み時間での取組）、短縄（検定カードを活用しての取組）等どれも取り組むことで力がついた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果を高めるためにも、今年度経験したことをもとに、コオディネーショントレーニングは年度の早い段階から各学年で取り組んでいく。</li> <li>高学年の委員会活動と連携し、取組の実施期間や方法を工夫することで、児童の意欲や技能、能力の更なる向上を図る。</li> </ul>